

資料 4-1 助産師能力開発プログラム展開の実際：マタニティケア能力

助産師クリニカルラダー		レベルⅠ	レベルⅡ
看護職員のキャリアラダー		レベルⅠ	レベルⅡ
到達目標		1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる	1. 健康生活支援の援助のための知識・技術・態度を身に付け、安全確実に助産ケアができる 2. ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる
マタニティ ケア能力	妊娠期・ 分娩期・ 産褥期・ 新生児期の 診断とケア/ 分娩期の 配慮の視点	情報収集	①支援を受けながら、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生活行動診断・経過診断に必要な情報を理解できる ②定められたフォームに従い、情報収集できる ③指導を受けながら、不足している情報が分かり、必要な追加情報を収集できる ④助産ケアの基準・手順に沿って正しい用語・適切な表現で記録できる
		アセスメント ／問題（ニーズ）の明確化	<b>ローリスク</b> ①妊産褥婦・新生児のバイタルサイン、検査値、身体の諸計測値の正常値が分かる ②産科に関連する解剖生理を理解できる ③支援を受けながら、測定値の持つ意味を理解できる ④支援を受けながら、収集した健康生活行動診断・経過診断の情報を分析できる ⑤周産期の代表的疾患について病態が理解できる <b>胎児治療</b> ①支援を受けながら、胎児治療に必要な情報を分析できる ②代表的な胎児疾患について病態が理解できる <b>無痛分娩</b> ①支援を受けながら、無痛分娩に必要な情報を分析できる
		診断	①支援を受けながら、健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名を付けることができる
		計画立案 実践 評価	[資料 4-2 参照]

レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
1. 助産過程を踏まえて個別的なケアができる 2. ローリスク／ハイリスクの判別および初期介入ができる	1. 入院期間を通して、責任をもって妊産褥婦・新生児の助産ケアを実践できる 2. ハイリスクへの移行を早期に発見し対処できる	1. 創造的な助産実践ができる 2. ローリスク／ハイリスク事例において、スタッフに対して教育的な関わりができる
①妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生活行動診断・経過診断に必要な情報について、個別的な助産ケアを実践するために必要な情報を漏れなく収集できる ②アセスメントに必要な情報を整理できる	①妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生活行動診断・経過診断に必要な情報を、理論的な根拠に基づいて収集できる ②心理・社会的側面、家族背景も考慮したアセスメントを行うために情報収集できる ③②の情報を、必要性・優先度を考慮して整理できる ④他の関連職種からも意図的に情報収集できる	①対象の個別性や心理・社会的側面、家族背景など全体を捉え、必要な領域に的を絞って選択的に情報収集できる
<b>ローリスク</b> ①収集した健康生活行動診断・経過診断の情報を分析できる ②妊産褥婦・新生児のニーズを明確にできる ③ニーズの優先順位を決定することができる <b>ハイリスク</b> ①妊産褥婦・新生児に起こっている問題を明確にできる ②問題の優先順位を決定することができる <b>胎児治療</b> ①収集した情報を分析できる ②胎児治療時のニーズを明確にできる ③ニーズの優先順位を決定することができる <b>無痛分娩</b> ①無痛分娩時のニーズを明確にできる ②ニーズの優先順位を決定することができる	<b>ローリスク</b> ①潜在するニーズを明確にできる <b>ハイリスク</b> ①潜在する助産問題を明確にできる ②助産問題と共同問題を明確に区別できる <b>胎児治療</b> ①胎児治療時に潜在するニーズを明確にできる <b>無痛分娩</b> ①無痛分娩時に潜在する助産問題を明確にできる	<b>ローリスク／ハイリスク／胎児治療／無痛分娩</b> ①診断プロセスに沿って対象の持つリスクを踏まえ正しく診断できる（院内助産対象の選定ができる） ②診断に至る根拠を他の助産師や医療チームメンバーに説明できる ③診断プロセスに沿った診断ができるように指導できる
①健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名を付けることができる ②診断した内容から問題の優先順位を考慮することができる	①健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名を付けることができる ②診断した内容について、助産師によるケアでよいか、医療介入が必要かを考慮した上で、優先順位を判断できる	①診断した内容を妊産褥婦を含めた医療チームで共有する ②診断した内容や問題の優先順位について指導できる ③緊急時に短時間で必要な情報収集・アセスメントを行い、優先順位を考えて診断できる
[資料 4-2 参照]		

国立成育医療研究センター院内教育冊子、日本看護協会助産実践習熟段階(クリニカルラダー)を参照し作成。2021年4月1日改訂

資料 4-2 助産師能力開発プログラム展開の実際：マタニティケア能力(つづき)

助産師クリニカルラダー		レベルⅠ	レベルⅡ
看護職員のキャリアラダー		レベルⅠ	レベルⅡ
到達目標		1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる	1. 健康生活支援の援助のための知識・技術・態度を身に付け、安全確実に助産ケアができる 2. ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる
マタニティケア能力	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の診断とケア／分娩期の配慮の視点	情報収集	[資料 4-1 参照]
		アセスメント／問題(ニーズ)の明確化	
		診断	
		計画立案	①妊産褥婦・新生児の現在の状態およびニーズを理解できる ②支援を受けながら、妊産褥婦・新生児のニーズに沿って目標を設定できる ③支援を受けながら、妊産褥婦・新生児の状態、問題リスト、目標に一貫性がある計画を立てられる ④ 5W1H を踏まえた具体的な計画を立案できる ⑤助産ケア基準・標準助産計画を活用できる
実践	①助産行為を行う前に必ず説明できる ②新人研修の内容を確実に実施できる ③支援を受けながら、受け持ち妊産褥婦・新生児の助産ケア計画に沿ってケアを実践できる ④治療および診断上必要な観察を行い、適切に報告できる ⑤支持された業務を、助産ケア基準・手順に沿って正しくかつ安全に実施できる ⑥実施した結果を助産記録の手順に沿って正しく記録できる ⑦緊急時の対応を理解している ⑧緊急時に人を呼ぶことができる ⑨緊急時に必要な物品を知り、手順に沿って整備できる	①助産行為を行う前に必ず説明できる ②支援を受けながら、基本的助産技術が実施できる ③担当した対象について、助産ケア計画に基づき、基準や手順に則り安全確実に助産ケアを実施できる ④助産ケア基準・手順に沿って正しい用語・適切な表現で記録できる ⑤緊急時に、1次・2次救命処置ができる(新生児蘇生も含む) ⑥クリニカルパス使用の場合、パスに沿って実践できる	
評価	①提供した助産ケアの結果を正確に報告できる ②助産実践において分からないことが言える	①助産実践における疑問点を質問し、解決できる ②支援を受けながら、根拠に基づき自分の行った助産を評価できる ③継続する問題について計画を修正できる ④助産実践を要約して記述できる	

レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
1. 助産過程を踏まえて個別的なケアができる 2. ローリスク/ハイリスクの判別および初期介入ができる	1. 入院期間を通して、責任をもって妊産褥婦・新生児の助産ケアを実践できる 2. ハイリスクへの移行を早期に発見し対処できる	1. 創造的な助産実践ができる 2. ローリスク/ハイリスク事例において、スタッフに対して教育的な関わりができる
[資料 4-1 参照]		
①妊産褥婦・新生児の個性を踏まえた助産計画を立案できる ②立案した助産計画を評価・修正できる ③妊産褥婦および家族参加型の助産計画を立案できる	①妊産褥婦・新生児の心理・社会的状況や家族の状況を踏まえた助産計画を立案できる ②状況に応じて計画を評価・修正できる ③妊産褥婦および家族参加型の助産計画を立案・修正できる ④関連する保健医療職との連携も含めた計画を立案・修正できる	①妊産褥婦・新生児における優先度を考え、助産問題に適した方法論を用いて計画を立案できる ②対象の問題を解決するために適切な目標(到達・測定・評価することが可能な目標)を設定できる ③計画立案のプロセスにおいて教育・指導的役割が実践できる
①助産ケア計画に則り実践できる ②妊産褥婦・新生児の状態や反応を判断しながら、必要なケアが行える ③現在挙げられているニーズや問題以外の新しい情報を、時期を逸せず記録し、計画の追加や修正ができる ④緊急時にメンバーとして行動できる	①計画に基づいて妊産褥婦・家族の反応を確認しながら実践できる ②施設・部署全体の妊産褥婦・新生児ケア実践において、中心的役割が実践できる ③緊急時に中心的役割が実践できる ④助産外来において、教育・指導的役割が実践できる ⑤関連する他の保健医療職と連携して実践できる	①助産実践において創造性と刷新性を発揮できる ②多様なアプローチを組み入れて看護・助産ケアが実践できる ③緊急事態にリーダーシップを発揮し対応できる ④常に教育・指導的役割が実践できる ⑤教育・指導的役割のスタッフを支援できる
①提供した助産ケアの結果を、根拠に基づき評価できる ②目標の達成度の結果を評価でき、計画を修正できる ③行ったケアを要約して説明・記述できる ④クリニカルパス使用の場合、パリアンスを評価できる	①提供した助産ケアについて、妊産褥婦・新生児・家族のニーズに合っていたか評価できる ②後輩・学生のロールモデルとなっているか自己評価できる	①提供した助産ケアについて質的・量的に評価できる ②スタッフの助産ケアを評価し、指導できる

国立成育医療研究センター院内教育冊子、日本看護協会助産実践習熟段階(クリニカルラダー)を参照し作成。2021年4月1日改訂